

## 第4学年 算数科学習指導案

- 1 単元名 わり算の筆算(2)「わり算の筆算を考えよう」(東京書籍「新しい算数」4年上 P102～121)
- 2 単元について
  - (1) 教材について

本単元は、学習指導要領算数科第4学年の内容[A数と計算]「(3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。」を受けて設定したものである。

子どもたちは、第3学年から整数の除法計算の学習を始め、第4学年の第3単元では、除数が1位数になる計算を学習している。

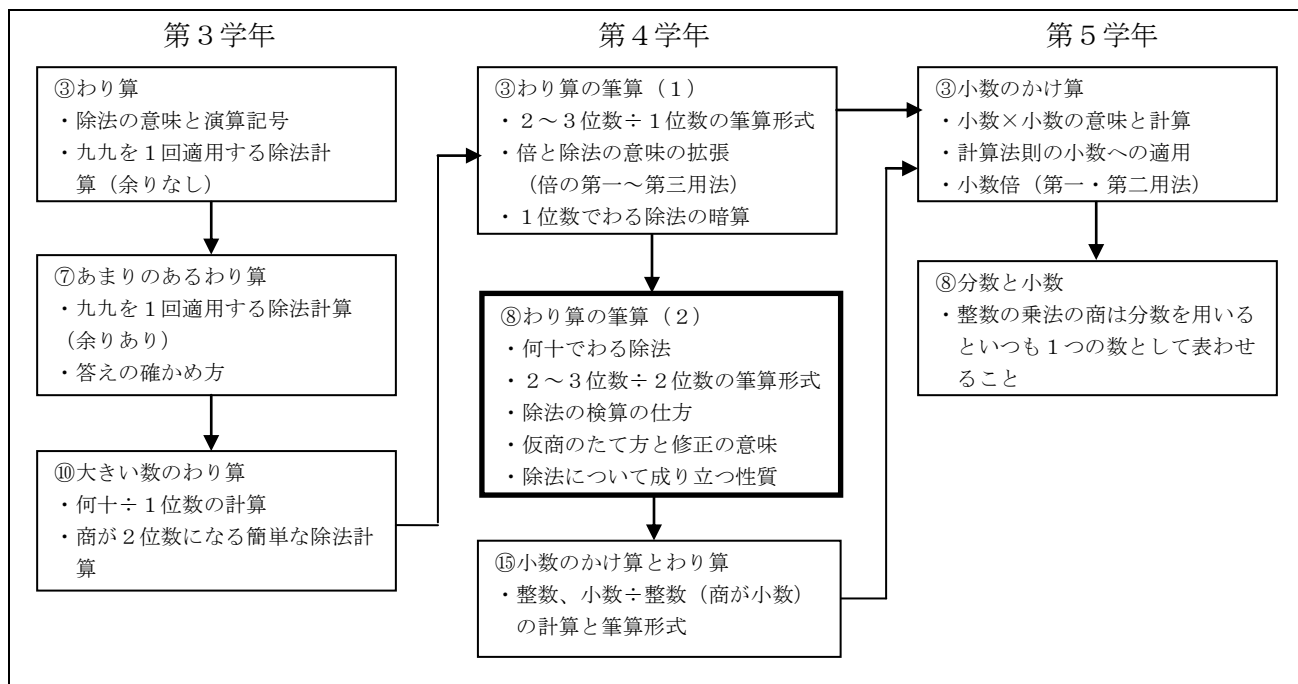
本単元では、除数が2位数で、被除数が2～3位数の計算について学習する。除数が2位数の計算も除数が1位数の場合と同様に、〈たてる〉〈かける〉〈おろす〉〈ひく〉の4操作を繰り返して商を求めていく。しかし、2位数の場合、〈商を立てる〉の段階で、仮商の修正が必要となるため、計算の理解と習熟は困難になってくる。そこで、計算の過程では、被除数と除数を概数でとらえて答えを予想する力を養うとともに、筆算の各段階の意味をしっかりと理解できるように単元の前半では、図や絵を使って筆算と照らし合わせて計算のしかたを考えさせたい。また、筆算の手順は1位数でわる除法の計算をもとにしながら取り扱い、2位数でわる計算も〈たてる〉〈かける〉〈おろす〉〈ひく〉の操作から成り立っていることを理解させ、定着を図りたい。

検算方法については、被除数、除数、商、余りの関係を調べ、除法について理解を深めるようにする。なお、余りは除数より小さい数であることの具体的な確認をするとともに、被除数、除数、商、余りの関係を計算の確かめに用いることができるようにしていく。

第4単元では、除法について成り立つ性質についても指導する。「被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商は変わらない」という性質をわり算のきまりとしておさえていく。

本単元は、整数の除法計算の技能を高めるとともに、除法についての理解を深め、上学年で学習する小数のわり算や分数と小数の学習理解へとつながる単元であると考えられる。

### 【教材の関連図】



(2) 指導について

本単元の学習、2位数でわる計算は、除数の桁数が増えても、計算を進める時の考え方や手順は同じであるが、仮商修正が必要となり形式的に指導すると児童にとって計算方法の理解と習熟は困難になる。

そこで、計算の仕方を考える段階では、2位数÷2位数、3位数÷2位数の筆算の仕方（原理・原則）の確実な理解を図るために、具体物や半具体物の操作活動を通して、100の束、10の束がいくつ分という意識づけを図りながら筆算につなげ、思考を深めていきたい。

マイノートタイムでは、図や絵と筆算の共通点や筆算のポイントを確認し、筆算の形式と意味を関連させながらノートをまとめられるように指導していきたい。しっかりとその時間の思考をまとめることで、1時間1時間の学習が積み上げられるようにしたい。

3 単元の目標

- ・整数の除法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。

【関心・意欲・態度】

- ・整数の除法の計算について、既習の基本的な計算を基にしてできることのよさに気づき、学習に活かそうとする。

【数学的な考え方】

- ・整数の除法の計算の仕方について、見積もりや除法の性質、既習の除法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。

【技能】

- ・整数の除法の筆算の手順を基にして、確実に計算することができる。

【知識・理解】

- ・整数の除法の筆算の仕方や除法について成り立つ性質について理解する。

4 指導計画・評価計画（15～16時間）

時	○目 標 主な評価規準	主な学習活動
① 何十でわる計算 1時間		
1	○何十でわる計算の仕方を理解し、その計算ができる。 【関】10を単位として、何十でわる計算の仕方を考え、説明している。 【技】何十でわる計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>60 \div 20</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>・<math>60 \div 20</math>の計算の仕方をまとめる。</li> <li>・計算練習をする。</li> <li>・<math>90 \div 20</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>・計算練習をする。</li> </ul>
② 2けたの数でわる筆算（1） 6時間		
1 （4   1）	○2位数÷2位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を理解することができる。 【関】 $87 \div 21$ などの計算で、前時の何十でわる計算を用いて商を見積もろうとしている。 【考】除数何十の場合の計算を基にして、2位数÷2位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を考え、説明している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>87 \div 21</math>の筆算の仕方を考える。</li> <li>・除数を20（切り捨て）とみて、商の見当をつける。</li> </ul>

2	<p>○2位数÷2位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>【関】87÷21などの計算で、前時の何十でわる計算を用いて商を見積もろうとしている。</p> <p>【考】除数が何十の場合の計算を基にして、2位数÷2位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を考え、説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・87÷21の筆算の仕方をまとめる。</li> <li>・87÷21の計算の検算をする。</li> <li>・「算数のおはなし」を読み、商の見当をつける際、被除数と除数の両方をまとめる方法があることを知る</li> <li>・計算練習をする。</li> </ul>
3	<p>○2位数÷2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>【技】見積もりをして仮商をたてて過大商のときの仮商を修正し、計算することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・86÷23の筆算の仕方を考える。</li> <li>・除数を20（切り捨て）とみて、商の見当をつける。</li> <li>・過大商の場合、仮商修正1回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。</li> <li>・81÷12の筆算の仕方を考える。</li> <li>・過大商の場合、仮商修正2回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。</li> </ul>
4	<p>○2位数÷2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>【技】見積もりをして仮商をたてて過小商のときの仮商を修正し、計算することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・78÷19の筆算の仕方を考える。</li> <li>・除数を20（切り上げ）とみて、商の見当をつける。</li> <li>・過小商の場合の仮商修正の仕方を理解し、この型の計算練習をする。</li> </ul>
5	<p>○除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。</p> <p>【関】自分の数感覚を基に、仮商の立て方を選んで計算しようとしている。</p> <p>【考】除数の見積もりを基に、仮商のたて方を工夫して考え、説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・87÷25の筆算の仕方を考える。</li> <li>・除数を切り捨てた（過大商）場合と、切り上げた（過小商）場合の筆算の仕方を比べる。</li> <li>・自分が仮商をたてやすい除数の処理の仕方を考える。</li> <li>・計算練習をする。</li> </ul>
6	<p>○3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたて方を理解し、その計算ができる。</p> <p>【技】3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・153÷24の筆算の仕方を考える。</li> <li>・計算演習をする。</li> </ul>
③ 2けたの数でわる筆算（2） 3時間		
1 （4   2）	<p>○3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>【考】既習の除法の計算を基に、345÷21などの計算の仕方を図や式を用いて考え、説明している。</p> <p>【技】3位数÷2位数=2位数の計算ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・345÷21の筆算の仕方を考える。</li> <li>・345÷21の筆算の仕方をまとめる。</li> <li>・計算練習をする。</li> </ul>
2	<p>○3位数÷2位数=2位数の筆算について、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。</p> <p>【関】自分の数感覚を基に、仮商のたて方を選んで計算しようとしている。</p> <p>【考】除数の見積もりを基に、仮商のたて方を工夫して考え、説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・476÷15の筆算の仕方を考える。</li> <li>・除数を切り捨てた（過大商）場合と、切り上げた（過小商）場合の筆算の仕方を比べる。</li> <li>・自分が仮商をたてやすい除数の処理の仕方を考える。</li> </ul>

3	<p>○商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の仕方 や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を理解し、それ らの計算ができる。</p> <p>【考】除数が2桁の場合の筆算の仕方を基に、3位数÷ 3位数の筆算の仕方を考え、説明しようとしている。</p> <p>【知】商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の 仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を理解して いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>943 \div 23</math>、<math>960 \div 16</math>の筆算の仕方を考える。</li> <li>・ 計算練習をする。</li> <li>・ <math>732 \div 216</math>の筆算の仕方を考える。</li> <li>・ 216を200とみて仮商をたてる。</li> <li>・ 計算練習をする。</li> </ul>
④ わり算のきまり 2時間		
1	<p>○除法の性質について理解する。</p> <p>【考】複数の式から、被除数と除数、商の関係を見出 し、説明している。</p> <p>【知】被除数、除数の両方を同じ数でわっても（同じ 数をかけても）商は変わらないという、除法の性質 を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商が等しいわり算の式を見比べて除法の性質につい て 考える。</li> <li>・ <math>150 \div 3 = 3</math>、<math>15 \div 5 = 3</math>、<math>30 \div 10 = 3</math>の関係を調べて、 除法の性質をまとめる。</li> </ul>
2	<p>○末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を理 解し、正しく余りを求めることができる。</p> <p>【技】末尾に0のある数の除法の簡便な方法による筆 算や余りを求めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>2400 \div 500</math>の筆算の仕方を考え、末尾に0のある数 の除法の簡便な筆算の仕方をまとめる。</li> <li>・ <math>2700 \div 400</math>の筆算の仕方と、末尾に0のある数の除法 での余りの求め方を考える。</li> </ul>
まとめ 3～4時間		
1	<p>○学習内容を適用して問題を解決する。</p> <p>【技】学習内容を適用して、問題を解決することがで きる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。</li> </ul>
2	<p>○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、わり算 についての興味を広げる。</p> <p>【関】学習内容を適切に活用して、活動に取り組もう としている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (やってみよう)世界の国々のわり算の筆算の仕方を 比べる。</li> </ul>
3 ( ・ 4)	<p>○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p>【知】基本的な学習内容を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「しあげのもんだい」に取り組む。</li> </ul>

## 1 児童について

## (1) 児童について

児童の多くは、意欲的に算数の学習に取り組み、学習を積み重ねてきている。しかし、個々の学力差が大きく、学習に対して積極的になれない児童、支援を要する児童もいる。そこで、学習に対する意欲を高め、かつ分かりやすく効果的な支援を考えた授業を行うことが必要である。

自力解決の場面では、言葉や式、数直線、図等を用いて自分の考えを書く力が少しずつ身につけてきている。学び合いの場面では、自分の考えを進んで発表したり、説明したりする児童に限られ、「自信がない」「恥ずかしい」などの理由から進んで発表できずにいる児童が多い。そこで、発表する機会を多く取り入れ、友達の考えを繰り返す、友達の考えを説明する、リレー形式で説明する等の多様な話す機会を設定し、それらを繰り返しながら自信をつけさせてきている。

マイノートタイムでは、自分の考えの間違いや、不完全だったところは加除修正を加える。また、友達の発表を聴き、よいと思った考えを自分の考えにつけ加えたり、板書を基に大事なポイントを吹き出しを使い分けながらメモしたりして、自分なりのノート作りができるようになってきている。

本単元の学習を進めるにあたり、レディネステストを行った。結果は以下の通りである。この結果を受け、個別指導を要する児童には補充指導を行った。

問 題 の 内 容		正答率
2位数÷1位数(あまりなし)の計算ができるか。	$96 \div 8$	97%
2位数÷1位数の暗算ができるか。	$50 \div 5$	91%
2位数÷1位数の暗算ができるか。	$72 \div 4$	84%
2位数÷1位数の問題を解決できるか。		88%
未習 何十÷何十の計算ができるか。		31%
未習 2位数÷2位数(あまりなし)の筆算ができるか。		16%

## 2 本時の指導

## (1) 目標

2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解することができる。

## (2) 授業の視点(研究仮説に関わって)

## ① 手立て1 書く・話す

- ・前単元「わり算の筆算」で用いた図を用いたり、既習の計算や考え方を用いたりしながら解決の見通しを持たせ、自力解決に取り組みさせる。
- ・全体の学び合いでは、友だちの考えを読み取ったり、考え方の根拠を確認したりしながらよさや共通点、学習のポイントを発表することができるようにする。

## ②手立て2 再思考・マイノートタイム

- ・色チョークを使いながら出された考えのよさや共通点、学習のポイントが分かるように板書を工夫し、マイノートタイムや学習のまとめへ活かせるようにする。
- ・マイノートタイムでは、自分の考えを整理したり、友だちの考え方のよいところや学習のポイントを書き加えさせたりする。

(3) 展開 (第2時)

段階	学 習 活 動		支援と留意点 ◎評価
	学習過程と教師の働きかけ	予想される児童の反応	
導 入  10分	1 問題をつかむ。	・問題文を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題メモを基に、分かっていること、求めることを具体物を出しながら確認し、立式させる。</li> <li>前時までの計算との違いに着目させ、何十÷何十何の計算の仕方を学習することをおさえる。</li> <li>◎前時の何十でわる計算を用いて商を見積もろうとしている。(観察・ノート)</li> </ul>
	色紙が87まいあります。この色紙を1人に21まいずつ分けると、何人に分けられて、何まいあまりますか。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題メモを書きましょう。</li> <li>分かっている数</li> <li>求めること</li> <li>どんな式になりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦・87まい</li> <li>・21まいずつ分ける</li> <li>㊧・分けられる人数</li> <li>・余る数</li> <li>・<math>87 \div 21</math></li> </ul>	
	2 学習課題をつかむ。		<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの計算との違いに着目させ、何十÷何十何の計算の仕方を学習することをおさえる。</li> </ul>
$87 \div 21$ のような計算のしかたを考えよう。			
	3 解決の見通しを立てる。		◎前時の何十でわる計算を用いて商を見積もろうとしている。(観察・ノート)
<ul style="list-style-type: none"> <li>前時と違うところはどこですか</li> <li>答えの予想はどれくらいですか。</li> <li>どんな方法で考えますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わる数が何十何になっている</li> <li>・4人くらい <math>80 \div 20 = 4</math> <math>90 \div 20 = 4</math></li> <li>・図</li> <li>・かけ算</li> </ul>		
展 開  30分	4 自力で解決する。 ・自分の方法でやってみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の学習を基に、図や式を書いて考えればよいことを確認する。</li> <li>実際に筆算に商をたててみて、その根拠を考えさせる。</li> <li>十の位に商がたたない理由を考えさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えはどうになりましたか。</li> </ul>	答え4人に分けられて、3まいあまる <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算で考える <math>21 \times \square = 87</math> <math>\square = 4</math> <math>87 - 84</math></li> <li>答え4人に分けられて、3まいあまる</li> </ul>	
	5 集団で解決する。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆算の仕方を考えましょう。</li> <li>商に何をたてますか。</li> <li>商をたててみましょう。</li> <li>商は何の位にたちますか。</li> <li>十の位に商がたたないのはなぜですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商は4。</li> <li>・一の位にたつ。</li> <li>・4人に分けたのだから、一の位にたつ。</li> <li>・10の束は8つしかないので、21まいずつ分けることはできないから。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21 をどのようにみて商の見当をつけるとよいですか。</li> <li>・それはなぜですか。</li> <li>・わる数の 21 を 20 とみて、商の見当をつけてみましょう。</li> <li>・商のたて方を確認しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 を十の位にたてると、40 になる。</li> <li>・20 と考えて計算します。</li> <li>・20 とみると九九を使って計算できるからです。</li> <li>・ <math>87 \div 20</math> で考える。  <math>20 \times 1 = 20 \quad 20 &lt; 87</math>  <math>20 \times 2 = 40 \quad 40 &lt; 87</math>  <math>20 \times 3 = 60 \quad 60 &lt; 87</math>  <math>20 \times 4 = 80 \quad 80 &lt; 87</math>  <math>20 \times 5 = 100 \quad 100 &gt; 87</math></li> <li>5 をたてると <math>20 \times 5 = 100</math> で、87 より大きくなるから、商は 4 になる。</li> <li>・わる数を 20 とみて、商の見当をつける。</li> <li>・一の位に商がたつ。</li> </ul> $\begin{array}{r} \phantom{0}4 \\ \underline{21) 87} \phantom{0} \end{array}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆算の操作を行い、確認する。</li> <li>・前時の学習のやり方を想起し、21 を 20 にして計算すると九九が使えることを確認する。</li> <li>・図と商を関連させながら確認する。</li> </ul> <p>◎除数は何十の場合の計算を基にして、2 位数 <math>\div</math> 2 位数の筆算の仕方を説明している。 (発表・ノート)</p>
6	マイノートタイムで考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出しなどを使い、自分なりに工夫してノートにまとめる。</li> </ul>	<p><b>【マノートタイムの視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを加除修正し完成させる。</li> <li>・友達のよい考えを書く。</li> <li>・ポイントを書きこむ。</li> </ul>
終末5分	<p>7 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>87 <math>\div</math> 21 のようなわり算では、わる数を何十とみて、商の見当をつけるとよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆算の仕方をまとめましょう。</li> <li>8 学習を振り返る。</li> <li>・今日の振り返りをしましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 P106 の <math>87 \div 21</math> の筆算の仕方を読む。</li> <li>・本時を振り返り評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の言葉を活かしながらまとめていくようにする。</li> <li>・自分のがんばりや友だちのよさが共有し合えるような場をつくる。</li> </ul>

(4) 評価計画

評価の観点 (評価場面・方法)	具体の評価規準	努力を要する子への手立て
	B おおむね満足している	
【関】 87÷21 などの計算で、前時の何十でわる計算を用いて商を見積もろうとしている。 (観察・ノート)	87÷21 の計算の仕方について前時の何十でわる計算を用いて商を見積もろうとしている。	前時の学習を想起し、何十÷何十の計算を基にして商を見積もることを確認する。
【考】 除数は何十の場合の計算を基にして、2 位数÷2 位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を考え、説明している。 (発表・ノート)	87÷21 の計算の仕方について除数何十とする計算を基にして、2 位数÷2 位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を考え、説明することができる。	21 を 20 とすることで九九が使えることを確認し、4 人に分けられることから、一の位に商がたつことを確認する。

(5) 板書計画

① 色紙が 87 まいあります。この色紙を 1 人に 21 まいずつ分けると、何人に分けられて、何まいあまりますか。

式  $87 \div 21 = 4$  あまり 3  
 答え 4 人に分けられて 3 まいあまる

②  $87 \div 21$  のような筆算の商のたて方を考えよう。

$$\begin{array}{r} 4 \\ 21 \overline{) 87} \\ \underline{84} \\ 3 \end{array}$$

・わる数を 20 とみて、商の見当をつける。  
 ・一の位に商がたつ。

③  $87 \div 21$  のようなわり算では、わる数を何十とみて、商の見当をつけるとよい。

4 人に分けられる

4 人に分けられる

4 人に分けられる

87÷20 として考える。  
 $20 \times 1 = 20$      $20 < 87$   
 $20 \times 2 = 40$      $40 < 87$   
 $20 \times 3 = 60$      $60 < 87$   
 $20 \times 4 = 80$      $80 < 87$   
 $20 \times 5 = 100$      $100 > 87$

5 をたてると  $20 \times 5 = 100$  で、87 より大きくなるから、商は 4。  
 答え 4 人に分けられて、3 まいあまる

④  $80 \div 20 = 4$

$90 \div 20 = 4$  あまり 10  
 よそう 4 人くらい あまり  
 方法 図

⑤  $21 \times \square = 87$      $87 - 84 = 3$   
 答え 4 人に分けられて、3 まいあまる

⑥ 答え 4 人に分けられて、3 まいあまる



児童 4年2組 男子17名 女子15名 計32名  
 指導者 奥州市立佐倉河小学校 千葉 智明

## 1 児童について

児童の多くは、真面目に算数の学習に取り組み理解を深めようとしている。しかし、個々の学力差は大きく、発表にも自信が持てず積極的になれない児童もいる。そこで、学習意欲を高めるために、楽しく学び考えを深める授業を行うことが必要である。学び合いの場面では、中心になる児童の発表を基にみんなが自信を持って話せる訓練を重ね、友達の考えを発表したり、リレー形式で説明したり、多様な話す機会を設定することで、少しずつ話す力が身につけてきている。

マイノートタイムでは、自分の考えが間違っていたり、不完全だったりした場合は、加除修正を加える。また、友達の発表を聴き、よいと思った考えを自分の考えにつけ足したり、板書を基に大事なポイントをメモしたり、自分なりのノート作りが少しずつできるようになってきている。

本単元の学習を進めるにあたり、レディネステストを行った。結果は以下の通りである。この結果を受け、個別指導を要する児童に補充指導を行った。

問題の内容	正答率 (%)
2位数÷1位数の計算（あまりなし）の計算ができるか。 $96 \div 8$	88%
3位数÷1位数の計算（あまりなし）の計算ができるか。 $455 \div 7$	78%
2位数÷1位数の暗算ができるか。 $50 \div 5$	59%
3位数÷1位数の暗算ができるか。 $72 \div 4$	53%
3位数÷1位数（あまりあり）の問題が解決できるか。 $125 \div 8$	53%
未習 3位数÷2位数の計算ができるか。 $60 \div 3$	28%
未習 2位数÷2位数（あまりなし）の筆算ができるか。 $96 \div 32$	13%

## 2 本時の指導

### (1) 目標

3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。

### (2) 授業の視点（研究仮説に関わって）

#### ① 手立て1 書く・話す


・見通しの段階で答えの予想をすることで、前時との違いである、商が2けたになること、100の束をくずすことを確認し、図や筆算で取り組むための手がかりとする。

#### ② 手立て2 再思考・マイノート

・色チョークを使いながら出された考えのポイントが分かるように板書を工夫し、マイノートタイムに活かせるようにする。  
 ・マイノートタイムでは、自分の考えを整理したり、友達の考えの良いところや計算のポイントを書き加えたりさせる。

(3) 展開 (第2時)

段階	学 習 活 動		・ 支援と留意点 ◎ 評価
	学習過程と教師の働きかけ	予想される児童の反応	
導  入  7 分	<p>1 問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     色紙が345まいあります。この色紙を21人で同じ数ずつ分けると、1人分は何枚になって何枚あまりますか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題メモを書きましょう。</li> <li>・ どんな式になりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 345まい</li> <li>・ 21人で同じ数ずつ分ける</li> <li>・ 1人分は何まいか。</li> <li>・ 何まいあまるか。</li> <li>・ <math>345 \div 21</math></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題メモを書くことにより問題を把握させる。</li> <li>・ メモをもとに、分かっていることと聞かれていることを確認する。</li> </ul>
	<p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>345 \div 21</math>のような筆算のしかたを考えよう。                 </div> <p>3 解決の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答えの予想はどれくらいですか。</li> <li>・ 前時と違うところはどこですか。</li> <li>・ どうやって確かめますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>340 \div 20</math> で 17 くらい</li> <li>・ <math>300 \div 20</math> で 15 くらい</li> <li>・ 商が 2 けたになること</li> <li>・ 筆算</li> <li>・ 位取り表</li> <li>・ 図</li> </ul>	
	<p>4 自力で解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の方法でやってみましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習の学習を基に <math>345 \div 21</math> の筆算に取り組む。</li> <li>・ 位取り表を作り、100の束、10の束をくずしながら分けていく。</li> <li>・ 100の束、10の束、ばらの図を書いて 21人に分けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習の学習を基に <math>345 \div 21</math> の答えの求め方を考える。</li> </ul>

展 開	5 集団で解決する。 ・みんなで考えましょう。 ・それぞれの考え方に共通点がありますか。 ・筆算で 100 の位に商が立たないのはなぜですか。	・100 の束、10 の束を順番にくずしている。 ・100 の束は 3 つしかなくて 21 人には分けられないから。	・それぞれの考え方を発表する。その際、発表のさせ方を工夫する。(リレー発表・代弁など) ・筆算と位取り表を比較検討させる。 ・図の操作、位取り表、筆算の操作の共通部分を確認する。  ◎既習の除法の計算を基に、 345÷21 などの計算の仕方を図や式を用いて考え、説明している。(発表・ノート)
	25 分	6 マイノートタイムで考えをまとめる。  7 学習のまとめをする。 ・345÷21 の筆算の手順を確認し	・吹き出しなどを使い、自分なりに工夫してノートに考えをまとめる。  ・P113 の 345÷21 の筆算の
終 末	8 適用問題を解く。  9 学習を振り返る。 ・本時の振り返りをしましょう。	手順を読む。 ・P113 	・まとめた方法で問題に取り組ませる。  ◎3 位数÷2 位数=2 位数の計算ができる。(ノート)  ・自分のがんばりや友だちのよさが共有し合えるような場をつくる。
13 分		・本時を振り返り評価する。	

(4) 評価計画

評価の観点 (評価場面・方法)	具体的評価規準	努力を要する子への手立て
	Bおおむね満足している	
<p>【考】既習の除法の計算を基に、<math>345 \div 21</math>などの計算の仕方を図や式を用いて考え、説明している。 (発表・ノート・観察)</p>	<p>3 位数<math>\div</math>2 位数=2 位数の計算の仕方について考え、説明することができる。</p>	<p>筆算と位取り表、図を関連させながら、100 の位の 100 の束が 3 つしかないため 21 人に分けられないことや、筆算の仕方、意味などを確認する。</p>
<p>【技】3位数<math>\div</math>2位数=2位数の計算ができる。(ノート)</p>	<p>練習問題で、3 位数<math>\div</math>2 位数=2 位数の筆算ができる。</p>	<p>340 を 10 のまとまりで考えると 34 束になり、21 人に分けると 1 人分はいくつになるかを考えさせ、10 の位に商がたつことを確認する。 たてる・かける・ひく・おろすの既習事項を確認する。</p>

(5) 板書計画

問 色紙が 3 4 5 まいあります。この色紙を 2 1 人で同じ数ずつ分けると、1 人分は何枚になって

式  $345 \div 21 = 16$  あまり 9

答え 1 人分は 16 まいで 9 まいあまる

課  $345 \div 21$  のような筆算のしかたを考えよう。

商が 2 けたになる

ま 100 のたばは 3 つで分けられないので商は立たない

筆算

よ

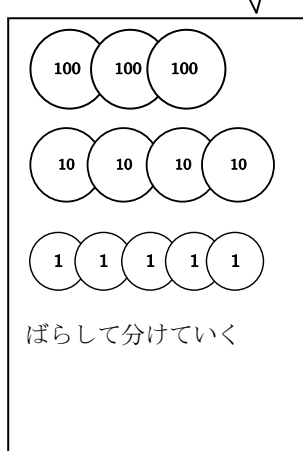
答え

$340 \div 20 = 17$   
 $300 \div 20 = 15$

方

筆算  
位取り表  
図

図



ばらして分けていく

位取り表

	百	十	一
21)			
	100	10	1
	100	10	1
	100	10	1
	100	10	1
	100	10	1

ばらして分けていく

筆算

21)	3	4	5
	2	1	
	1	3	5
	1	2	6
			9